

令和 7 年度 認知症施策の取組と実績について

令和 8 年 3 月末実績

【認知症施策の位置づけ】

市：第 9 期佐倉市高齢者福祉・介護計画（令和 6 年度～令和 8 年度）の重点施策

(1) 認知症の理解を深めるための普及啓発

事業	令和 7 年度の主な取組と実績
認知症サポーターの養成 認知症の人と関わることが多い小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員、子ども、学生に対する養成講座の拡大に努めます。	・一般市民向けの他、薬局・介護事業所・郵便局、小・中学校等に対する養成講座を開催 ・認知症サポーター養成講座の開催状況については「別紙」参照
認知症の人本人からの発信支援 地域で暮らす認知症の人本人からの発信の機会が増えるよう、普及啓発に取り組みます。社会の理解を深め、地域の人が認知症に関する正しい知識と理解を持って、認知症があってもなくても同じ社会の一員として地域をともにつくっていけるよう、支援体制づくりや認知症の理解の促進に努めます。	・アルツハイマー月間にあわせ、認知症の人の『本人発信支援』の一環として、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が主体となり、「みらいにつなぐ〇〇」をテーマとしたポスター・パネルを作成。テーマから想起される、大空に浮かぶ風船や鳥、気球、音符などをモチーフにした絵の中に、認知症の本人、家族などによるメッセージを入れて一緒に製作した作品を、圏域ごとに公共施設に掲示 ・本人発信の機会、当事者同士で話し合う場（本人ミーティング）をつくる目的で「合同オレンジカフェ」を開催。歌を楽しんだり、家族同士で情報交換を行う場面がみられた。 ・実施回数：1 回、参加者：21 名 （内訳：当事者 4 名、介護家族 4 名、一般 3 名、オレンジカフェ従事者 5 名、ボランティア 5 名）
認知症サポート医、認知症専門医による普及・啓発 講座の開催等を通じ、地域住民や認知症の人の家族、介護サービス関係者等に認知症の正しい知識の普及を図ります。	・実施回数：1 回 ・講師：みつば脳神経クリニック 院長 大木 剛先生 ・参加人数：78 名 ・参加者のアンケートからは、認知症予防の取組として運動や食事といった基本的な生活の見直しを図りたい、地域活動などに参加したいといった声のほか、病気の理解ができたことで認知症の家族への気持ちが優しくなれそう、説明を聞いて対処方法が広まった、など前向きな感想が多くきかれた

広報・リーフレット等による認知症の理解促進 毎年 9 月 21 日の認知症の日（世界アルツハイマーデー）を中心に、認知症に関するイベントや講座、相談窓口等の普及啓発に係る取り組みを行い、理解の促進を図ります。	・ 9/19～21 の 3 日間、ふるさと広場の風車をオレンジ色にライトアップ ・ 京成志津・ユーカリが丘・臼井・佐倉・大佐倉駅構内に、認知症月間とオレンジライトアップをお知らせするポスターを掲示 ・ JR 佐倉駅構内、イオンユーカリが丘店内、市役所社会福祉センター、志津図書館、南図書館、夢咲くら館、千代田・染井野ふれあいセンター、ふるさと広場の売店において、認知症の情報コーナーを設置し、「みらいにつなぐメッセージ」のほか啓発ポスターやリーフレットを展示・配架
認知症地域支援・ケア向上事業推進補助金の交付 認知症の人と家族に対する支援活動または認知症の人の社会参加支援活動を行う団体に対し補助金を交付することにより活動を支援します。	・ 2 団体に補助金を交付 ① オレンジカフェ「シュシュココンカフェ」 （主催：シュシュココンカフェ） ② オレンジカフェ「さくさくカフェ」 （主催：訪問看護ステーション さくら咲くさくら）

（2）予防

事業	令和 7 年度の主な取組と実績
脳とからだの元気力測定の実施 早期から認知症の症状や発症リスクについての知識を学び、自身の認知機能を把握することで、生活習慣の改善、社会参加、適切な医療受診などへの主体的な取り組みを促進します。	・ オンラインデジタルツール「のう KNOW」を使用し、対象者がタブレット端末（パソコン、スマホでも可）を操作することにより、脳の健康度を測定 反応速度や正答率から、脳の健康度（脳年齢、集中力スコア、記憶力スコア）を測定。スマホやタブレットを用いて自宅での測定も可能 ・ 実施者 延 207 人 （会場 180 人、自宅等 27 人） 性別 男性 72 人 女性 135 人 平均年齢 74.65 歳（54 歳～94 歳） ・ 測定結果 平均脳年齢 75.6 歳 集中力スコア 4.0～33.2／50（満点） 集中力ランク A 116 人 B 53 人 C 38 人 記憶力スコア 9.5～37.2／50 記憶力ランク A 155 人 B 42 人 C 10 人 ・ 結果に応じ、物忘れ相談、介護予防教室、再測定などを勧奨

(3) 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

事業	令和 7 年度の主な取組と実績
認知症初期集中支援チームによる支援 認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族への訪問、観察、評価、対象者に適切な医療・介護サービスに繋ぐ初期の支援を実施します。	・ 初期集中支援 新規対象者 19 人 ・ 訪問件数、チーム員会議の件数と処遇については「資料 2」参照
認知症カフェ（オレンジカフェ）の開設 認知症の方と家族、地域住民、専門職が集う「認知症カフェ」を開設し、介護者間の交流と、専門職による相談体制の充実を図ります。	・ 市内 9 か所に開設（地域包括支援センター委託 5 か所、認知症ケア専門士主催 1 か所、介護事業所 1 か所、一般カフェ店舗 2 か所） 開催回数：70 回 参加延人数：1,156 人 ・ 参加者内訳 当事者延 289 人（男性延 122 人、女性延 167 人） 家族 271 人、一般 196 人、ボランティア 400 人 ・ 専門職によるカフェ参加者への相談支援：52 件 ・ カフェの内容は、茶話会、音楽鑑賞・演奏（歌唱含む）、演芸鑑賞、作品制作などさまざまであるが、できるだけ当事者の希望や当事者が主体的に参加できるものを取り入れている ・ 相談内容としては、介護保険サービス利用や施設に関するものが多い
物忘れ相談の実施 物忘れや認知症についての不安があるかた及びその家族を対象に、専門医等による物忘れ相談を実施し、認知症や MCI の早期発見・早期受診や不安の解消等の支援を行います。	・ 実施回数：12 回（毎月 1 回） ・ 相談件数：45 件 ・ 結果 受診勧奨：22 件 （うち主治医継続 2 件、専門医紹介 20 件） 経過観察：16 件 サービス紹介：7 件 ・ 面談の様子や本人、家族の希望等により地域包括支援センターや各種サービス、地域の通いの場などにつないでいる

家族介護支援事業（介護者教室・介護者のつどい） 介護家族の身体的・精神的負担の軽減を図るため、基本的な介護に関する学習や実習と介護相談、介護者自身の健康管理、情報交換等を通じた支援を行います。	・家族介護支援事業（介護者教室・介護者のつどい） 教 室 開催回数：20 回 参加延人数：436 人 テーマ：介護技術、消費者被害、認知症の対応など つどい 開催回数：40 回 参加延人数：245 人 テーマ：屋外散策、施設見学、茶話会など ※令和 8 年度からは「介護の学び・つどいの場」として一体的に実施
認知症の「共生」と社会参加活動の推進 認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる「共生」社会の構築を目指します。また、認知症の人のつながりを支援し、家族等の介護負担の軽減を図りながら、認知症の人が地域において役割を担い、生きがいをもった生活を送れるよう、支援体制づくりを進めます。	・認知症の人が、尊厳と希望を持って生きる「共生」社会の構築に向けた普及啓発 （再掲）認知症サポーター養成講座の実施、認知症高齢者声かけ訓練の実施 ・家族等の介護負担の軽減、認知症の人の役割・生きがいを持てる支援体制づくり （再掲）オレンジカフェの実施、チームオレンジ活動推進、認知症地域支援・ケア向上事業推進補助金の交付 ・「希望をかなえるヘルプカード」のリーフレット配架
認知症の人の意思決定支援体制の整備・成年後見制度利用促進 認知症の人の意向を尊重し、その尊厳を保持しつつ、切れ目なく保健医療サービス、福祉サービス等が提供されるよう、支援体制づくりを進めます。	・認知症の人の意向を尊重しながら、切れ目なく保健医療福祉サービス等が提供される支援体制づくりの推進 ・佐倉市成年後見制度利用促進基本計画に基づき、佐倉市成年後見支援センター（佐倉市社会福祉協議会へ委託）を中核機関として、制度利用に係る相談支援、普及啓発活動、後見人の支援等を実施 成年後見支援センター相談総件数 665 件 成年後見等開始審判請求費用助成件数 0 件 成年後見人等報酬費用助成件数 高齢者 31 件 成年後見等開始審判請求数 高齢者 12 件（市長申立数）

若年性認知症の人への支援、社会参加支援 若年性認知症についての周知と理解の促進、相談機関や医療へのコネクトを図りながら、若年性認知症の人の就労等に関する情報等を提供し、孤立させない支援体制づくりを推進します。	・市ホームページや公共施設窓口において、若年性認知症についての相談機関の周知（リーフレットの配架） ・随時相談を受け付けた際は千葉県若年性認知症専用相談窓口を紹介
---	--

（４）認知症バリアフリー、若年性認知症の人の支援、社会参加支援

事業	令和7年度の主な取組と実績												
認知症高齢者声かけ訓練の実施 認知症の高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の見守り支援体制を整えるため、地域の公園や集会所等において、道に迷っている認知症高齢者への声かけや各所への連絡、連携の実地訓練を開催します。	・開催回数：4回（4地域） 参加人数：66人 <table><tr><td>西志津地区社会福祉協議会</td><td>参加人数</td><td>19人</td></tr><tr><td>千代田地区社会福祉協議会</td><td>参加人数</td><td>18人</td></tr><tr><td>井野小学校区まちづくり協議会</td><td>参加人数</td><td>11人</td></tr><tr><td>松ヶ丘第二団地自治会</td><td>参加人数</td><td>18人</td></tr></table> ・道に迷った高齢者に遭遇した場面を想定して、認知症高齢者役のかたに実際に声をかけてみる訓練。参加者からは、「最初の一声をどうかけようか迷う」「大きな声で話そうと思うと怒鳴り声のようになってしまい難しい」といった感想あり	西志津地区社会福祉協議会	参加人数	19人	千代田地区社会福祉協議会	参加人数	18人	井野小学校区まちづくり協議会	参加人数	11人	松ヶ丘第二団地自治会	参加人数	18人
西志津地区社会福祉協議会	参加人数	19人											
千代田地区社会福祉協議会	参加人数	18人											
井野小学校区まちづくり協議会	参加人数	11人											
松ヶ丘第二団地自治会	参加人数	18人											
チームオレンジ活動推進 認知症サポーター等を認知症の人やその家族のニーズにあった支援につなげる仕組み（チームオレンジ）を整備し、地域における支援ニーズの把握や認知症の理解促進、本人発信支援等についての活動を推進します。	・認知症サポーターステップアップ講座を修了した者をチームオレンジメンバーとして登録 ・認知症サポーターステップアップ講座の開催：1回（2日間） ・チームオレンジ 総登録者数 95人 ・チームオレンジ 設置数 2か所 ・チームオレンジ活動 延回数 136回、延人数 507人 主な活動：オレンジカフェや介護者教室、声かけ訓練の運営サポート、アルツハイマー月間における啓発ポスター・パネル作成、認知症サポーター養成講座において寸劇発表、京成志津駅前の花壇整備、オレンジカフェ併設の畑における農作物づくり 等												

(4) 認知症バリアフリー、若年性認知症の人の支援、社会参加支援

事 業	令和 7 年度の主な取組と実績
高齢者の虐待防止ネットワークの活用 高齢者虐待の防止と早期発見・早期対応・再発防止を図るため、市内の関係機関・団体等が連携を強化するために設置している「佐倉市高齢者虐待防止ネットワーク」を活用した関係機関によるケース検討会議の開催や、専門機関等と連携した様々な支援・対応を進めます。	・ 地域における見守り意識の高揚を図り、関係機関と連携した様々な支援・対応を実施 ・ 高齢者虐待通報件数 77 件 ・ 高齢者虐待認定件数 30 件 (うち分離件数 4 件、4 件とも対応開始時分離済)
2市1町SOSネットワーク 佐倉市・八街市・酒々井町・警察署・消防組合・防犯組合連合会による連絡協議会を組織し、認知症高齢者等が行方不明になった場合に、FAXや防災無線等を利用して捜索への協力を呼びかけます。また、GPSを利用した位置情報検索システムの端末購入費用の助成や、行方不明となるおそれのある高齢者等に対し、身元確認のできる「SOSステッカー」の交付を行います。	・ 捜索回数 48 回 (うち佐倉市民 34 件) ・ GPS 端末初期費用助成 5 件 (うち佐倉市民 4 件) ・ SOS ステッカー交付(市内) 44 人 (交付延べ人数 446 人)